

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 246 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 12 回

2017.10.18
話：三沢浩

寺子屋 246 は 6 人の参加で開催されました。

■ 強いデザイン志向を持ちながら公共建築を先導した吉田鉄郎、山田守などの活躍と、民間資本の勃興を背景に生み出された渡辺節から村野藤吾に至る商業ビルへの系譜は、複雑に絡み合いながらも日本の近代建築としての「ビル」という建築タイプを完成させていきます。直輸入の様式建築でも理念的なモダンデザインでもない、独自の感覚を持った都市建築としての洗練を追求することで、今につながっていきます。



渡辺節「麵業会館」



村野藤吾「日生劇場」

新建・寺子屋(モダニズムの研究)246

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2017年10月18日(水) 話：三沢浩

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第12回

1. 前回のスライドVIへの補足

- 1) ツルピカのモダンデザインの要点
- 2) 日本への影響と消化した程度
- 3) 通信省の吉田と山田のこと(吉田鉄郎・山田守)
- 4) 堀口と藤井の接点をもう一度(堀口捨巳・藤井厚二)

2. 今回のスライドVIIの要点を(藤森にない部分も)

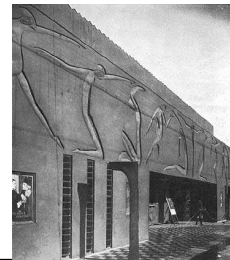
- 1) 渡辺節の綿業会館と村野藤吾(森五)
- 2) 渡辺仁の作品とコンペの前川
- 3) 土浦のビル、谷口の工大
- 4) 山口文象の近代への参加と橋(隅田川)
- 5) 吉田五十八の近代数寄屋と作品

3. 藤森の著書にあつてスライドのない部分

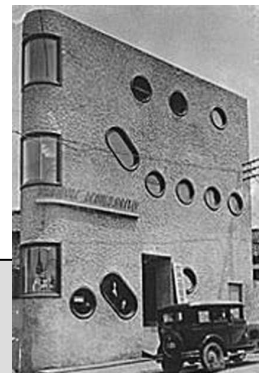
- 1) 後藤慶二の高い評価と作品
- 2) 本野精吾のドイツ風西陣織物館や RC 造の評価
- 3) バラック装飾社と MAVO(村山知義)
- 4) ダダと今和次郎、そして吉田謙吉の考現学
- 5) 吉田五十八の新興数寄屋のつくり方

4. 今後の本講座のすすめ方とその先のこと

- 1) 初期モダニズムをつくった A. レーモンドの作品
- 2) 「帝国ホテル」の位置づけとライトの他の作品
- 3) 遠藤新のこと、田上義也の作品
- 4) さらに前川、坂倉、丹下のコンペのこと
- 5) そして丹下以後の若い世代の方向



村山知義



次回 <寺子屋 247> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 13 回

話：三沢浩

2017年11月15日(第3水曜日定例) PM 7:15~

場所：新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400 円

問合：大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com